

農業体験を通じて、「将来の職業選択肢の幅を広げるための農業の魅力の発信」や「農業体験という校外活動を通して食の大切さや流通などを総合的に学習するとともに、生徒の新たな可能性を広げる」ことを目的として、学校と農業法人・J A福島中央会が連携して農業体験を実施。

基本情報

- 所在地：福島県福島市
- 団体名：福島県立大笹生支援学校
- 取組パターン：中間支援の取組
- 主力商品・イベント：長ネギ、長ナス



(収穫するナスの大きさの説明)

取組の概要

- フルーツの生産が盛んな地域に位置した学校として、校内に畑や樹園地があったが校舎の増築などにより、校内圃場がなくなり農業体験が難しい状況になった。一方、学習活動の中では農作業にも取り組んでいたが、原発事故（東日本大震災）の影響により、屋外での栽培ができなくなっていた。
- しかし、農作業は児童生徒にとって必要な学習と考え、土の入れ替えや収穫物の放射性物質検査などを行いながら、じゃがいも栽培などを行っていた。
- 令和2年度にJ A福島中央会より、「将来の職業選択肢に農業も入れてもらうための農作業体験会にご協力いただけないか」との依頼があり、農業体験復活の足掛かりとして受託し、令和3年度で2年目の活動となっている。

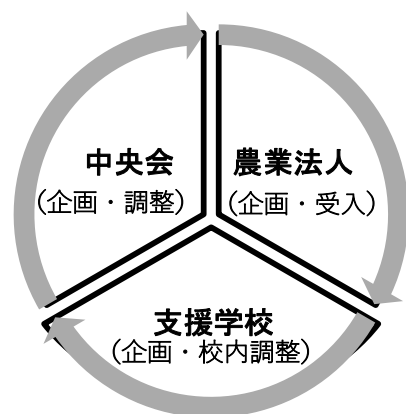


(野菜結束機の体験)



(スコップを使ってのネギの収穫)

体制図



取組の成果

- 野菜の収穫から調製作業を体験することを通し、農業への興味・関心が高まった。
- 実際に農業に従事している方々に、特別支援学校(知的障害)の生徒と関わっていただくことで、生徒への理解を深めていただくことにつながっている。
- 生徒への作業方法の説明のやり方など、引率教員を通して、生徒が理解できる説明方法などで伝え農作業を知る機会となった。

所在地 ▶ 福島県福島市大笹生字俎板山182番地の2

連絡先 ▶ TEL：024-558-8710 FAX：024-556-0416

E-mail：ohzasou-sh@fcs.ed.jp

ウェブサイト ▶ <https://ohzasou-sh.fcs.ed.jp>

【取組のプロセス】

2001年～

原発事故により屋外での栽培が不可能

きっかけ

フルーツの生産が盛んな地域に位置した学校で、校内に畑や樹園地（リンゴや梨）があったが、校舎の増設などで校内の圃場がなくなり、農業体験が難しい状況

2011年
3月～

土の入れ替えや放射能検査を行いながら狭い畑で栽培活動

原発事故により、屋外での農作物の栽培ができなくなったが

- 学習活動の中で農作業にも取り組み、じゃがいもやさつまいも、大根、白菜などを育てていたが、東日本大震災による原発事故の影響により、屋外での農作物の栽培ができなくなった。
- 農作業は児童生徒にとって必要な学習と考え、土の入れ替えや収穫物の放射性物質検査などを行いながら、狭い畑でじゃがいもの栽培などを行っていた。



（バッグシーラーの使い方の説明）

2020年
4月～

JA福島中央会より農作業体験会への協力依頼

JA福島中央会から農作業体験会に対する協力依頼

- JA福島中央会より、「将来の職業選択肢に農業も入れてもらうための農作業体験会にご協力いただけないか」との依頼があり、農業体験復活の足掛かりとして受託【長ネギの収穫と収穫後の調製作業を実施】



（地域施設の清掃作業）

2021年
4月～

農作業体験会で生徒が収穫・包装した長ネギ・茄子を直売所で販売

農業高校とクリーン活動班の交流

- 農作業体験会で生徒が収穫・包装した長ネギと茄子をJAふくしま未来農産物直売所で販売
- 農業高校の生徒が来校し、クリーン活動班（主に清掃の仕方を学習する作業学習班）の生徒と一緒に、農業高校の生徒が育てた花苗を校地内へ植える活動を通して交流
- クリーン活動班が農業高校や地域の福祉サービス事業所等へ出向き、清掃を行い学習の成果を実践

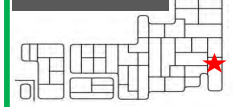


（花植えを通しての農業高等との交流学习）

今後の
展望

特別支援学校生徒の農業への関心や周辺からの理解の促進

- 農作業体験を通して、学んだことを他の生徒に伝えることにより、農業への興味や関心を高めることにつなげる。また、進路選択の幅や社会に対する視野を広げることにつなげる。
- 農業関係者に、本校生徒が農作業に取り組む様子を見ていただくことで、特別支援学校の生徒の実態や作業能力等についての理解促進を図る。



帝人(株)の特例子会社として2019年に設立、農業事業に着手。大手企業のネットワークの強みを活かし販路開拓。監督職員が技術指導・生活相談・ジョブコーチを兼務し、高品質・生産性向上・低コスト化及び社員の成長を実現。

基本情報

- 所在地：千葉県我孫子市
- 団体名：帝人ソレイユ(株) 我孫子農場
(屋号：ポレポレファーム)
- 取組パターン：直接雇用型・連携型
- 主力商品・イベント：
胡蝶蘭、野菜類、干し芋、
食用バラ/エディブルフラワー、
農作業ボランティア、ピザ窯ランチ

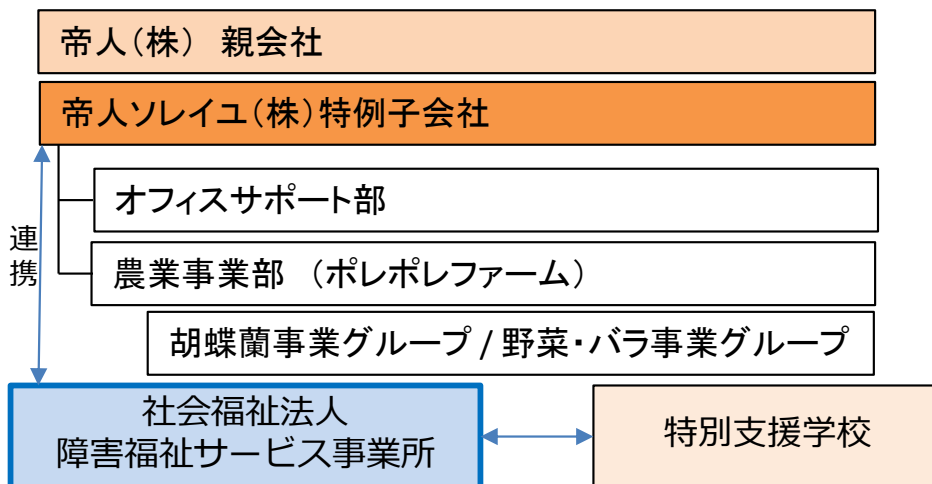


取組の概要

- 自社農園で、高付加価値の①オーガニック野菜(1ha)、②エディブルローズ(中型ハウス1棟)、③胡蝶蘭(大型ハウス1棟)を生産・販売。
- 農業事業部に15名を最低賃金以上で雇用、マネージャー3名(うち1名が農福連携技術支援者、障害者職業生活相談員、企業在籍型職場適応援助者)がジョブコーチ役を兼務し、高品質・生産性向上・低コスト化、さらには社員の成長を実現。
- 大企業の強みをフル活用し、大型投資(胡蝶蘭ハウス5千万円等)、CEO等のトップセールス(胡蝶蘭)、国内社員1万人の協力・支援、定期メルマガ受信5,700名等を背景に、順調に雇用拡大と黒字化に向けて進捗。



体制図



取組の成果

- 障害者雇用者：取組当初(2019)の3人から15人(2021)に拡大。
- 平均賃金：約13万円を維持し雇用者を拡大。
- 売上額：初年度の240万円から数千万円(2021)と5倍以上に増加。
- その他の成果：野菜宅配事業はグループ内でほぼ完売。胡蝶蘭は、法人で主に大手企業を中心に70社超、個人で100名超から受注があり、順調に推移。先進性が評価され、NHKをはじめメディアからの取材も多い。

所在地▶〒270-1101 千葉県我孫子市布佐845-1

連絡先▶TEL:04-7199-9591 FAX:04-7199-9562

E-mail: porepore_farm@teijin-soleil.com

ウェブサイト▶<https://www.teijin-soleil.com/>

【取組のプロセス】

障害者のクオリティ・オブ・ライフの向上
共生社会の実現、
社員の成長

2017年～

きっかけ

障がいがある家族を持つ社員有志が特例子会社設立を企画提案。
帝人（株）の経営会議で会社設立が承認され（2018年）、有志社員の一部が人事異動して経営に携わる。

2019年

会社設立により障害者雇用を開始。特例子会社として認可

- 2019年会社設立。我孫子農場での農業班3名、東京本社でのオフィスサポート班4名の7名で障害者雇用を開始。
- 特例子会社として認定。オーガニック野菜の出荷開始。



2020年

胡蝶蘭ハウスの竣工、食用バラ/エディブルフラワーの生産開始

- 胡蝶蘭ハウスが竣工。農業事業部の下に胡蝶蘭事業グループを新設。
- 食用バラ/エディブルフラワーの販売開始。我孫子市内レストランに販売・出荷。
- 干し芋生産の開始。我孫子直売所で販売し完売。



2021年

胡蝶蘭アレンジメントのリリース、胡蝶蘭ブランドの立ち上げ

- 胡蝶蘭を使用したアレンジメントフラワーを外部と組んで開発し、新発売。
- 胡蝶蘭ブランド「Planet's Hug Orchid」を立ち上げ。
- 社員の成長に資する「支援員不在」のコンセプトが明確になる。
- 我孫子市のふるさと納税返礼品として胡蝶蘭アレンジメントを登録。



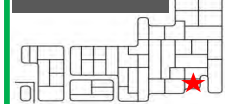
今後の
展望

障がいのある方々にとっての“新しい現実を創る”

- 「農福連携」という国を挙げた農業での障害者雇用拡大の動きも追い風にしながら、企業型の成功モデルを確立し、「ハンディキャップのある方々がこんなにスゴイことをやっているんだ！」という驚きを世界に発信していけることを目指す。



Joy at Work
(やりがいと働く
楽しさ)の具現化



6次産業化と農福連携を組み合わせることで障害者の工賃向上と新たな地域ブランドを確立。
マルシェ・バザー等にも積極的に参加し、交流人口が拡大。

基本情報

- 所在地：神奈川県平塚市
- 団体名：社会福祉法人進和学園
しんわルネッサンス
- 取組パターン：福祉完結型
- 主力商品・イベント：
自動車部品組立、農産品加工、植樹用苗の栽培等



湘南とまと工房



植樹用苗の生産

取組の概要

- 1974(昭和49)年より自動車部品車の仕事を中心に事業を展開。社会情勢の変化にあわせて作業種の多角化を推進し、農産品加工、地元スーパーでの施設外就労にも注力。
- 自社ブランド「湘南とまと工房」を立ち上げて、ジュース、ピューレ、ジャムを製造、販売。2021年にHACCPを取得。
- 障害者本人の自立・工賃向上の一環として、どんぐりや木の実から植樹用のポツ苗を栽培し苗木を各所での森林再生や緑化活動に広く活用。



加工用トマトの下処理



加工商品のパッキング



体制図

社会福祉法人進和学園

しんわルネッサンス
(就労継続支援A型・B型事業所)
サンメッセしんわ
(就労継続支援B型事業所)

(株) 研進 (営業)

連携

本田技研工業株式会社

神奈川県・平塚市
JA、個人農家他

自動車部品組立

湘南とまと工房

いのちの森づくり

パン・菓子等

取組の成果

- 受託加工：取組当初(2011年)の150万円から1,800万円(2020年)に拡大。
- 障害者雇用・就労：取組当初の8人から20人(2020年)に拡大。
- 波及的な成果：6次化によりJA及び個人農業者の取引先が60か所、連携する農家等からのトマトの取扱量は年間約15トンと地域農業の発展に貢献。

所在地▶〒259-1204 神奈川県平塚市上吉沢1520-1

連絡先▶TEL:0463-58-5414 E-mail: rune-selp@shinwa-gakuen.or.jp

ウェブサイト▶<http://www.shinwa-gakuen.or.jp/>

【取組のプロセス】

円高の影響による
国産部品輸出の減
少、海外サプライ
ヤーからの部品調
達の増加

2011年～

きっかけ

自動車部品の組立作業を受注してきたが、社会情勢の変化により受注が
落ち込み、事業の多角化を決意
障害者の方への「良質な仕事の提供」と農業者と連携する事での地域貢献を
目指した農産品加工を開始

規格外農産物の有
効活用

2013年～

6次産業化総合化事業計画の認定、農産物加工施設を整備

- 地域で生産された規格外のトマトやみかん・自前の農園で栽培するブルーベリーを活用して、ジュースやジャムを製造することで障害者の雇用・就労機会を創出。
- 自社ブランド「湘南とまと工房」を立上げ、生産・販売を開始。
- 神奈川県農業技術センターOBを技術顧問として迎え、製造技術・商品開発についてアドバイスを実施。
- 摘果されたみかんを使用した「湘南みかんパン」が第4回全国逸品セレクションで準グランプリを受賞（2015年）。



2018年～

さらなる販路拡大に向けてインターネット販売を開始

- (株)研進と連携し、インターネット販売（楽天市場等）を開始。
- 地元平塚の「湘南ひらつか名産品」に認定される。また、平塚市のふるさと納税の返礼品としても活用。



2021年～

品質維持・向上を図るためHACCPを取得

- 食品衛生管理に関する勉強会等に積極的に参加。
- 製造量及び加工品目拡大のため、蒸気ボイラーを導入し、新たに設備を整備。

地域社会の支援、本人の勇気、職員の努力と熱意、ボランティアの協力、家族の団結、行政の応援といったチームワークを推進

- ネットワークの交流が拡大し、平塚市・飲食業者・農協・漁協とのコラボ商品といった地域の魅力を高める商品を開発。
- 加工品としてレトルト商品を開発し、さらなる販売強化、インターネットを活用した販路拡大を実践。

今後の
展望





塩づくりに関する遺跡の地で、地域の農業組合、漁業組合、食品加工会社、生活協同組合などと連携し、化石燃料を使わない釜炊き自然塩づくりの取組み。

基本情報

- 所在地：和歌山県御坊市
- 団体名：社会福祉法人 太陽福祉会
- 取組パターン：直接雇用型
- 選定表彰：平成22年度「優秀賞」環境省
- 主力商品：釜炊き自然塩



塩屋の天塩（釜炊き自然塩）

取組の概要

- 塩づくりに関する遺跡がある地で、紀伊水道の海水を汲み上げ、地域の廃材を燃料とした、化石燃料を使わない釜炊き自然塩づくりに取り組む。
- 商品は直売所、ホテル、飲食店等で販売するとともに、塩を用いた生食パンの製造・販売、学童等を対象とした釜炊き体験等を実施。



地域の遺跡から出土した製塩土器



釜炊き



塩を用いた生食パンやピザ

体制図

社会福祉法人 太陽福祉会
・菜の花作業所

就労継続支援B型事業所
和の杜

御坊市
(ふるさと納税等)

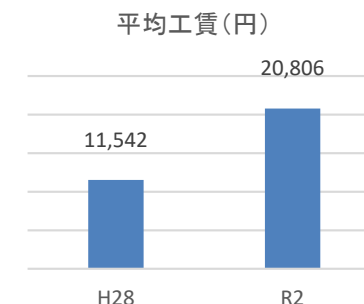
(株)メモリアルウエスト

(有)鳥好

⋮

取組の成果

- 平均工賃は、H28の11,542円から、20,806円(R2)に概ね倍増。
- 最近5年間、塩の生産量は約2トン、売上は300万円以上を継続して達成。



所在地▶和歌山県御坊市塩屋町南塩屋450-7

連絡先▶TEL：0738-23-3267 FAX：0738-23-3267

E-mail：kashiwagi@taiyo.or.jp

ウェブサイト▶ <https://www.taiyo.or.jp/>

【取組のプロセス】

きっかけ

障害者の父兄等を中心とした、障害者の居場所・活動場所づくり

2002年～

NPO法人菜の花会地域活動支援センターの設立

- 2002年、障害者の父兄等が中心となってNPO法人菜の花会 地域活動支援センターを設立。
- 地域農家より山林地を無償で借受け、作業場を建設。
- 漁業者の協力により汲み上げた、紀伊水道の海水を釜で炊き上げる自然塩づくりに取り組む。
- 釜炊きの燃料は、地域で増える廃屋の廃材を用いて利用者が薪を作成。



(海水の汲み上げ)

2010年～

2010年、御坊市より休止中の給食センターを無償で借受。作業場、事務所、売店を開設。



(釜炊き)

2020年～

社会福祉法人 太陽福祉会に経営移管

- 農水福連携の取組の活発化を目指し、NPO法人菜の花会を社会福祉法人太陽福祉会に経営移管。



(3重に行う異物チェック)

最近の状況

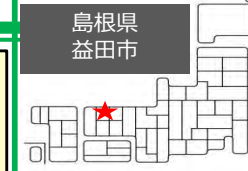
- 塩生産量：約2トン（R2）、売上：335万円（R2）、平均工賃：20,806円（R2）、障害者の就労者数：12名（R2）

- 利用者の平均工賃は県平均を上回っているが、今後も生産と販路の拡大の取組みを目指す。
- 塩づくりの行程で発生するにがり肥料等にするなどの活用を検討する。
- 都市部からの見学者が増えており、釜炊き体験等による都市農村交流の取組みを目指す。
- 漁業者に海水の確保に協力いただいております、元気のない地域の漁業を応援するためにも干物等の水産加工の取組みを目指す。



(農産物に、にがりを噴霧する)

今後の展望



「いつでも、だれでも、等しく陽の当たる場所」というコンセプトのもと、馬と障害者が支え合って農業を介して地域に貢献。

基本情報

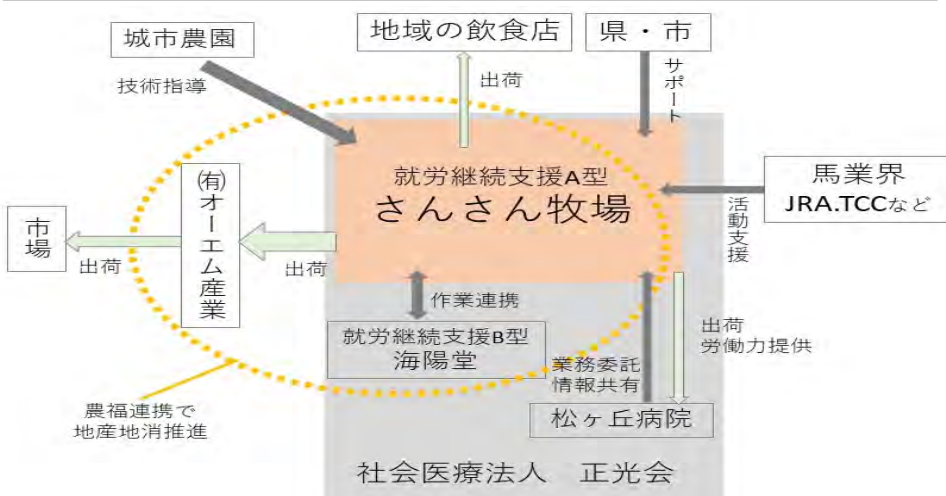
- 所在地：島根県益田市
- 団体名：社会医療法人正光会
さんさん牧場
- 取組パターン：グループ内連携型
- 主力商品：ミニトマト、キュウリ、細ネギ、小松菜、玉ねぎ、かぼちゃ、グラスジェムコーン、バタフライピー、マイクロトマト 等



取組の概要

- 知的、精神発達障害者、高次脳機能障害の計20名が、観光牧場で飼育している馬、うさぎやヤギの飼育及びハウスと露地を利用しそれぞれの特性や習熟度、本人の希望、体調や特性等を考慮して業務を割り振られて従事している。
- 障害者への農業指導は農福サポーターが職員（支援者）に指導し、職員から特性に合わせて障害者へ指導している。理解力の高い障害者に対しては、直接指導して頂くこともある。
- 多様な業務があり、裏方から接客、力仕事から繊細な作業までバリエーションが豊かでそれぞれの課題、特性を生かせる仕事づくりを行っている。

体制図



取組の成果

- 地域の観光協会とコラボし、甲冑着用で海岸乗馬ができる体験プログラムができるなど、魅力的な観光地へと寄与。
- 社会医療法人であるため、医療関係者の見学も多く、アニマルセラピーや農福連携について将来を若者に学んでもらう場を提供。
- 地域の学校等の実習・研修を積極的に受入、障害者も健常者も学びを深める場としており、当事業所に就職した方もいる。

所在地▶島根県益田市高津三丁目2 2 - 1

連絡先▶TEL:0856-31-1377 FAX : 0856-31-1379

E-mail: info@sansanfarm.jp

ウェブサイト▶http://www.sansanfarm.jp

【取組のプロセス】

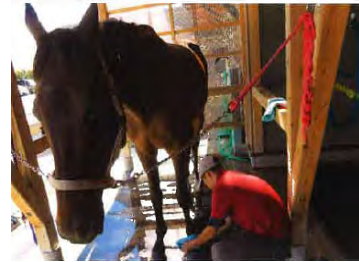
2018年～

きっかけ

益田市馬事公苑が老朽化の為廃止となり地域住民からの
「ホースセラピーを残してほしい」との声を受け止めた。

就労継続支援 A 型事業所さんさん牧場をオープン

- 観光牧場事業をスタート。敷地内にグループホームを併設。
- 放課後デイサービスや近隣校の子どもたち、高齢者などにホースセラピーを実施



2019年～

農福連携をスタート

- ハウス・露地の農地を（5a）を借り、農業を開始。
- 東京農業大学の乗馬療法の研究に毎年協力。



2020年～

就労継続支援 B 型 海陽堂と作業連携

- 青果卸売企業が耕作していた農地（ハウス2棟20a）を借りて耕作を開始。
- 敷地内にカフェをオープンし利用者の多様な訓練の実施が可能。



2021年～

障害者も健常者も馬も「誰もが生きやすい社会」に向け

- 「馬・福祉・農業」の更なる繁栄
- 馬の飼育→馬糞たい肥→作物生産→収益→馬の飼育 循環型社会の更なる飛躍



今後の
展望

障害者雇用を5名
でスタート

障害者雇用を9名
に増加

農業で売上げを初
めて記録

障害者雇用を17名
に増加

12,000人を超え
る来場者の居場所
と利用者の訓練の
場として敷地内に
カフェをオープン。